

# ① 広報のあがり



空から見た現在の幌別市街

## 登別町開基100年

あかるくゆたかな郷土の建設

# 開基百年を迎えて

このたび、ここに開基百年記念式典を迎えるにあたり、他に比類なき発展を遂げている我登別町の姿を見つめながら、四万三千町民各位とともに、過去の業績を顧りみ、さらに希望多き将来を祝福す



## 町長 高田忠雄

倉小十郎邦憲が、大政官布告によって、この幌別郡の支配を命ぜられ、邦憲の子景範の手によって幌別郡の受渡しがなされ、翌三年から片倉の家臣が、当地に移り、うつ蒼たる樹木が間断なく生え茂り、熊狼ほうこうする昼なお暗い広漠な地に、新天地開拓の意気に燃えて力強く鍬が打込まれたのです。

以来、先人が綴る數

に建設され、五千人の人口増加を示し、当町の気運は上昇の一途をたどり、昭和二十六年、「待望の町制」を施行、さらに町名を「登別町」に改名し、道央新産都市ベルト地帯の工業園内にあつて、今や日本屈指の町として、大登別市建設という大構想のもとに著々発展をつけている。

ここに、この記念すべき登別町百年を迎えるに当り、過去の歩みを静かに顧りみて、今日の隆昌の基礎をつくられた先人の偉業とその功績は、不滅のものであり、町の歴史とともに永遠に輝き、私もこの郷土を継承するものとし

奇な開拓苦闘史とともに、着実な歩みが続けてまいり、戦後になって当町も、交通に、觀光に、産業に道南の要衝として脚光を浴びるところとなり、町勢は驚異的な進展を続けてここに百年を迎えるところとなつたのであります。

ることのできますことは、私の最も喜びとするところであります。

おもうに、百年の昔、えぞ地が北海道と改称され、十一国八十六郡が置かれ、当登別町も幌別村、鶯別村、登別村の三村をもって、明治二年八月十五日（新歴九月二十日）幌別郡として誕生をみたのであります。

同年九月、仙台藩白石の城主片

即ち、「東洋」を誇る登別温泉をはじめ、カルルス温泉を含めた觀光資源の開発、各種化学工業の進出、その他諸産業の開発など、町民一丸となつた意欲的な都市建設さらに、日本製鋼所、旭製鉄所の事業の拡張、い、社宅が米馬

て感謝の誠を捧げるものであります。

時代の波は、果しなく流れ去りまた、流れ来るものであつて、真に町民の幸福を希求して、榮土なる郷土の建設を究極の目的とし、近く完成する「登別町総合開発計画」をその指針として、今後とも觀光、教育、商工業、社会福祉施設など、あらゆる面において、これが充実完備させなければならぬものであります。今後これらの完成に、町民一致協力して邁進されんことを切に望んでやまないものであります。

# 登別町民憲章制定

開基百年を記念して、登別町民憲章が、次のとおり制定されました。  
この憲章は

わたしたちは、古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の町民です。  
ここにわたしたちの心がまえを定めて、よりよいまちをつくることに努めます。

一、心身をきたえよく働いて、活気あふれる豊かなまちをつくりましょう。

一、親切をつくしきまりを守って、明るい住みよいまちをつくりましょう。

一、自然を愛し力をあわせて、緑と空と太陽のいっぱいあるきれいなまちをつくりましょう。

一、未来をつくる青少年の、健全な夢の育つまちをつくりましょう。

一、教養をつみ視野を広げて、平和で文化のかけ高いまちをつくりましょう。  
(九月二十日制定)

## 町民憲章の意義

町づくりは、町ぐるみで町民の協力と努力によってなされるもので、町づくりのため、町民として、活の中に、いかされて、はじめてとなることを定め、心の制の意義があると思ひます。

# 開基百年記念式典・行事

## 九月十九日 九月二十日 盛大に挙行

登別町開基百年記念式典・行事は九月十九二十日の両日、町内外招待者五百余名を招待し、盛大に挙行するとともに、各種記念行事が多彩にくりひろげられます。

### 記念行事プログラム

日程	行事名	月日	時間	場所
1日目	祝賀パレード (雨天中止)	9月19日	10時より	登別温泉・登別・幌別 鶯別の市街
2日目	駅伝大会 (小雨決行)	9月20日	8時30分より	登別温泉～登別～幌別 ～鶯別～中央公民館
	記念式典 および祝賀会	9月20日	11時より	幌別中学校屋体

### 町民総参加で 登別町百年を祝う

記念行事プログラムは、別表のとおりですが、実施内容を行事別にみるとつぎのとおりです。

### 祝賀パレード

実施地区の市街地目ぬき通りを町内団体、地区婦人会、一般町民参加のもとに、ブラスバンド(登別大谷高校、北海道日大高校、国鉄室蘭、自衛隊第七師団)を先頭に小旗をもって行進。また、団体会社等の車輛に装飾をして行進。

◎行進経路・時間

登別温泉地区 十時より  
(万世閣バスターミナル)

登別地区 十一時より  
(登別駅前～登別中学校)

幌別地区 十二時三十分より  
(中央公民館～生活館～国道)

上田コンクリート前踏切～十字街～富士鉄社宅北～中央公民館

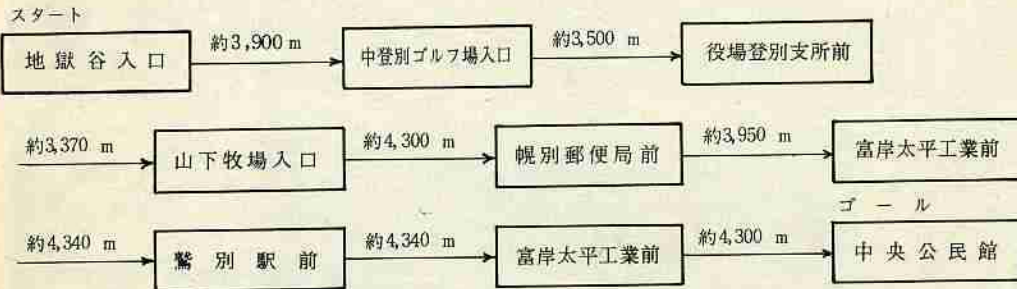
鶯別地区 十四時より  
(鶯別小学校～鶯別駅前)

### 駅伝大会

一チーム八人による団体競技で登別町内の事業所および、学校等の同一職域チームまたは、町民による混成チームによりおこないます。

◎表彰

- ▽優勝チームに町長杯を授与
- ▽一位から五位まで入賞表彰
- ▽区間の最高記録者表彰
- ▽参加者全員に参加賞を授与



## 晴れの記念式典で 六十八氏を表彰

九月二十日、幌別中学校屋体でおこなわれる記念式典で、登別町の功労者として、つぎの方々が、晴れの表彰ならびに感謝状を受けることになりました。

### 自治功労者

◆理事者および議員

岩倉誠一(登別温泉) 志賀裕

(鶯別) 宮武忠兵衛(幌別)

三浦守治(登別温泉) 室久吉

(鶯別) 伊藤芳太郎(登別温泉)

大山吉次(来馬富士鉄社宅) 若

浜要吉(鶯別) 藤田隆雄(登別)

内藤秀吉(来馬富士鉄社宅)

勝間留吉(登別) 南邦夫(登別)

温泉) 河野敏文(幌別) 宮武

清一(登別) 東島栄一(来馬)

菱田栄一(登別温泉) 須藤善作

(登別)

◆その他町公職者

竹村権四郎(来馬) 山下菊次

郎(富浦) 南輝雄(千才) 高

橋貞五郎(登別) 森口護(鶯別)

三好秀一(幌別)

◆町職員

大西直市 小野寺勇 後藤四郎

星野達也 藤田勝美 田村仙一郎

大家保治 西尾和久 佐藤作太郎

小野要三郎 山下文雄 中浜元三

郎 伊藤元二郎 前川敏雄 野村

仁司 吉田精一 高橋二男 岡田

竜登 渡部千二夫 阿曾幸作 片

岡義市 進藤七郎 高山永治 吉

田義雄 秋本慧 阿部道夫 佐々

木勇司 阿部憲 福沢嘉枝 田上善治 小西直輔 佐々木ミツエ

◆消防功労者

堅田久次郎 秋吉勇雄 高橋謙

一、大寺常隆(以上登別温泉)

◆統計功労者調査員

小笠原勇(中登別)

◆教育功労者

日野謙一(カルルス)

◆社会福祉功労者

森口護(鶯別) 阿部孝一郎

(来馬) 吉田正成(登別) 赤

松秀治郎(札内) 浅沼春次郎

(幌別)

◆感謝状贈呈者

◆開拓功労者

故 片倉コウ(宮城県白石市)

◆産業功労者

永田昌紳(東京都世田ヶ谷区)

南タカ(登別温泉)

◆岩倉誠一氏など五名

町功労者表彰条例による

表彰を受ける

登別町功労者表彰条例による功

労者として、九月二十日おこな

われる記念式典で、次の方が表彰さ

れることになりました。

岩倉誠一(登別温泉) 志賀裕

(鶯別) 宮武忠兵衛(幌別)

三浦守治(登別温泉) 室久吉

# 歴史に輝やかじい足跡の数々

## 開基100年記念事業から

開基百年を迎えるに当り、われわれ先人が自からの手で、自からの郷土を拓き開いた貴重な教訓とその偉業をしのぶと共に、さらに未来に夢を託せる開町二世紀への第一歩を踏み出すため、町民がこぞって利用し、参加できるような数々の記念事業を積極的に推進しております。

すでに、完成したものが、現在急ピッチでおこなわれているおもな事業をお知らせします。

### 青少年の健全育成

来馬二百六十一の二七番地(幌別福音教会前)に鉄筋コンクリート及び鉄骨造り二階建構造の床面積六百七十五平方メートルの広さで、八月十八日より工事にかかりました。

この会館は、町の将来を担う青少年が、健全で知性に富んだ成長を念願し、とくに、スポーツ、研修、集会等の施設として利用されるもので十二月十五日を竣工予定で工事が進められています。

なお、工事費は一千九百七十七万円です。

### 児童福祉の充実

幌別警察官派出所横に新設する汐見公園は、十月十六日完成をメドに工事が進められます。

この公園の広さは約五百平方メートル。

園内の施設は、ブランコ、流れ型すべり台、シーソー・グロリアジャングル、ベンチ、鉄棒、砂場のほか照明灯を設備され、まわりはさくで仕切られます。

今後は、こどもの路上遊びもなくなり、交通橋から守るためにも交通安全施設になると地域の人からよるこぼれている。

### スポーツの振興

次代の登別町を担う若人の清新に満ちた躍動の機会を数多く与えるため、四十二年十一月から、町営陸上競技場を第三種公認グラウンドにするため、工事が進められていきましたが、八月九日この第三種公認競技場が完成しました。

### 第三種公認

同競技場は、日胆地区で初めてのもので、総面積二万一千平方メートルの一週四百メートル八コー스의トラックとフィールドで、総事業費は一千三百万円。去る八月十一日グラウンド開きには、胆振地方スポーツ大会が盛大に行なわれました。

### 社会福祉の充実

昭和六十年を展望  
総合開発計画策定  
四十二年十月七日総合開発計画審議会条例が制定され、各会の代表により審議会が置かれました。

この計画は、住民全体の生活の向上と福祉の増進をはかり、住民ひとりひとりの幸福につながる地域開発を基本として、昭和六十年までの長期展望にたった計画の策定であります。

委員の構成は、伊藤森右衛門(小樽商大教授)、笹森秀雄(北大助教授)、鷹田吉憲(室蘭開発建設部々長)、水沢和久(室蘭土

### 教育文化の向上

#### 図書館建設基金の積立

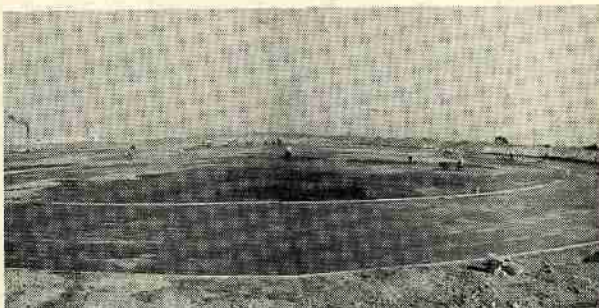
町民の文化水準を向上させるため、三ヶ年(画をもって、昭和四十五年)に青少年会館に隣接して図書館を設けることになりました。

### 社会福祉の充実

#### 生活館の新築

社会福祉および文化施設としてさらに住民の集会施設として高浦神社横にコンクリートブロック構造の床面積百九十八平方メートルの広さで工事を進めております。

内部には、会議室、図書室、和室、事務室などが間取りされ、総工事費は五百六十万円、竣工は十月三十一日予定。



### 総合開発計画策定

昭和六十年を展望  
総合開発計画策定  
四十二年十月七日総合開発計画審議会条例が制定され、各会の代表により審議会が置かれました。

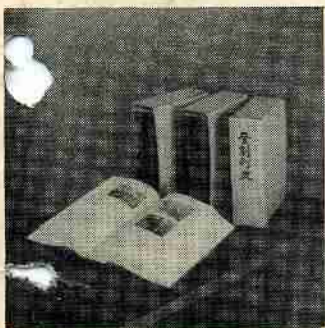
この計画は、住民全体の生活の向上と福祉の増進をはかり、住民ひとりひとりの幸福につながる地域開発を基本として、昭和六十年までの長期展望にたった計画の策定であります。

委員の構成は、伊藤森右衛門(小樽商大教授)、笹森秀雄(北大助教授)、鷹田吉憲(室蘭開発建設部々長)、水沢和久(室蘭土

### 歴史の記録

#### 登別町史の発行

昭和三十九年九月町史編さんの事業がはじまった。委員の選定、事務局の設置、専門委員、調査員の委嘱などおこない、道立ならびに北大図書館、道史資料室、函館図書館に出向き、あるいは、往時登別に移り住んだ古老や役場の諸記録、資料等あらゆる方面から丹念をこめ、この仕事が進められました。



本現業所々長) 南 邦夫、河野敏文、大山吉次、上村秀雄、武田新作、香川八郎(以上町議) 三浦守治(農業委員会々長) 室久吉(連合PTA会長) 上田邦男(商工会々長) 若狭徳兵衛(登別温泉観光協会副会長) 竹村権四郎(農業協同組合長) 志賀裕(漁業協同組合長) 井野正揮(開拓農業協同組合長) 山本茂治(地区労協副会長) 須賀武男、吉田正成、植村清蔵、松下音七、前川悦郎(以上連合町内会長) 多田 弘(富士鉄社宅親和会々長) 以上の学識経験者により構成されています。

この町史は、A五判の千三百二十七ページで、登別町百年の歴史の顕現であり、永遠にわれわれの郷土愛を醸成する糧として生きてゆくものと思います。

昭和四十二年四月発行され、未来に向って限りなく輝く、登別町建設の道しるべとして広く愛読されています。

### ありがとうございました

#### 土地を寄付

坂本三五郎さん(上鷺別)が、このたび学校敷地等に利用して下さいと土地四五、〇三四平方メートル(上鷺別一六番地)を寄付してくださいました。

香典返しをやめ寄付

登別温泉にお住いの南 武志さんは、このほど死亡された、おかあさんの香典返しの一部として、現金一〇万円を、登別町育英会に寄付してくださいました。